

都市づくりの基本方針

環境負荷の少ない集約・連携型の都市づくり

これまででは、人口増加を前提として市街化区域を拡大するなどの都市づくりを進めてきました。しかし、全国的な人口減少社会の到来により、本市でも20年後には現在の人口を大きく下回り、さらに高齢化が進行することが予想されます。

今後は、中心市街地の活性化、公共交通の利便性の向上、地域コミュニティの維持など、さまざまな課題を解決していくためにも、必要な都市機能を中心市街地などの都市拠点に集約するとともに、農村集落地とのネットワークの充実により、各地域が連携した都市づくりに転換していきます。

都市づくりのイメージ図



このように、まちなか居住が進むことで、人口減少に負けない活力あるまちを実現していきます。

これにより、中心市街地や駅などを中心とした地域に人口が集中することで、道路や公園など都市施設の維持管理や行政サービスの提供に関するコストの軽減が期待できます。また、店や病院が近くにあり、歩いて生活することが容易になります。

市が目指すまちの姿…それは

水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ

笑顔溢れるまちとは、住む人も訪れる人も幸せを感じるまちです。住みよく、暮らしやすいまちで、誰もが生き生きと楽しく暮らしていることが、訪れる人にとって、最大のおもてなし環境です。

「古代から現代へ人の営みをつなぎ、未来を切りひらくまち」これが行田です。現代を生きる私たちは、まちをつくり、育て、発展させ、未来につなげていきます。

主なリーディングプロジェクト（重点施策）

5年で見えるまちづくり

本計画の実現性を高めるため、先導的な取り組みを「リーディングプロジェクト」として位置付け、速やかに「5年で見えるまちづくり」に向け推進します。

元気づくり
プロジェクト

都市拠点の形成とまちなか居住の誘導
まちなかを元気にするために、中心市街地やJR行田駅周辺の活性化を図り、定住化を促進します。

- JR行田駅の駅前広場再整備
- 公共公益施設の充実
- 小規模店舗などの起業・経営を支える支援制度の充実

ネットワークづくり
プロジェクト

土地利用の転換によるにぎわいと活力の創出
交流とにぎわいを生む多機能交流拠点の整備や、新たな雇用の場となる産業拠点の創出に取り組みます。

- 多機能交流拠点の整備
- 産業系や幹線道路沿道の土地利用の見直し
- 住居系土地利用への見直し

水と緑と歴史の
まちづくり
プロジェクト

利便性の高い道路・公共交通ネットワークの形成
都市拠点と生活圏が円滑につながる交通利便性の高いまちづくりを進めます。

- 南北軸幹線道路の整備促進
- 市内循環バスなど地域公共交通の充実
- 広域幹線道路の整備促進

まちを楽しむためのネットワークの形成
歩いてまちを楽しむことができる交通環境の充実を図ります。

- 生活道路の整備および安全対策
- 快適な歩行者空間の整備
- サイクリングロードの充実

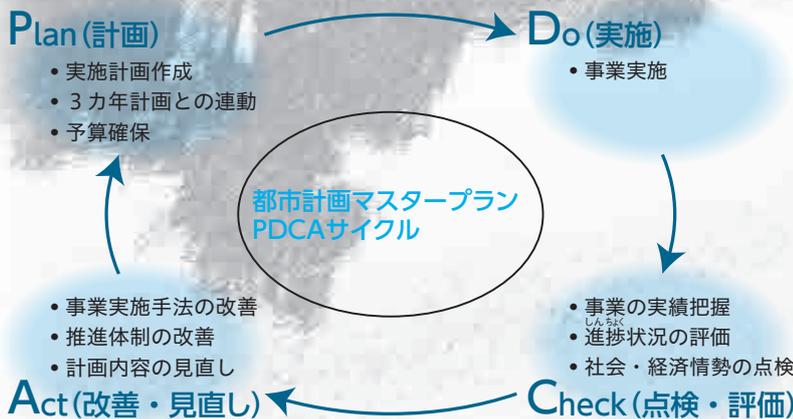
地域資源の活用による、にぎわいと交流の創出
豊富な地域資源を活用し、住む人や訪れる人によってにぎわいと交流が生まれる拠点や施設の充実を図ります。

- 足袋蔵を活用した蓮華寺通りなど周辺の整備
- 古代蓮の里の充実
- ささたま古墳公園の拡張・史跡整備の促進

計画の実現に向けて

計画に掲げる取り組みは、その成果や効果がすぐに現れにくいという特徴があります。また、今後は限られた財政状況の中で、選択と集中が求められます。

このことから、本計画に位置付けられた取り組みがどのように事業に反映され、実現されているかを検証するために、PDCAサイクルによる進捗管理を行うとともに、適宜見直しを行います。



▶ 問い合わせ 都市計画課計画担当 ☎550-1550